

平成14年度  
生物多様性情報データベース構築  
データベース作成（検討）課題成果報告書

課題名：シーボルト収集動植物標本データベース

提出日 平成15年 3月 10日

研究機関名：北九州市立自然史・歴史博物館

研究機関代表者：上田 恭一郎 印

## 1. 作成（検討）したデータベースについて

データベースの概要及び特徴	<p>（作成（検討）したデータベースの概要と特徴、他の類似のデータベースとの相違点等を記述して下さい。）</p> <p>シーボルトと彼の助手ビュルゲルが江戸末期（1823-1835）に日本で収集し、現在オランダのライデン市にある国立自然史博物館、国立植物標本館に主に収蔵されている動植物標本 20,200 点（動物 8,700 点、植物 11,500 点）のデータベース。標本とラベルの画像、標本のテキストデータからなる。多くのタイプ標本（動物約 350 点）、トキ、ニホンオオカミ、カワウソ等絶滅動物が含まれ、約 180 年前江戸末期の日本の動植物相がそのまま保存されている貴重なタイムカプセルである。</p>
生物分野	<p>（対象となる生物分野を具体的にお書きください。）</p> <p>ほ乳類、蝶類、魚類、昆虫、甲殻類、軟体動物、植物</p>

## 2. データ調査と収集について

（実施計画書に基づいて具体的な作業を行った場合に記載してください）

データの種類・発生・収集場所	<p>（自機関での発生・収集、他機関での発生・収集を区別し、標本データ、学名データ別、分類群別の件数、具体的なデータ収集機関名を記述して下さい。）</p> <p>北九州市立自然史・歴史博物館に保存されている甲虫標本のスライドを整理し、126種300枚の画像ファイルを作成、データベース化した。甲虫は総数189種なので、本年度約67%が終了したことになる。</p>
----------------	---

<p>他機関の場合の連携協力について</p>	<p>(特に海外調査にてデータ収集、データ作成を行った場合、その対象機関との協力体制や問題点などについて記述してください。)</p> <p>山口隆男はオランダの国立植物標本館にて植物標本のデータ収集を行った。約3000点のさく葉標本、50点の種子を新たに調査、撮影し、さらにこれまでの標本に新たに付けられた標本番号を再確認した。また動物、植物を概略的にまとめた原稿を自然史博物館、植物標本館のスタッフに校閲依頼した。</p> <p>上田恭一郎は前年度の予算で作成したこのデータベースのプロトタイプを持参し、オランダ国立自然史博物館で学芸部門のクリッケン副館長をはじめとする関係スタッフにプレゼンテーションを行い、このプロジェクトに関して理解、協力を求めた。その結果、ライデン側も大いに興味を示し、共同プロジェクトとしてぜひ行いたいとの申し出があった。具体的には標本のデータベース化は日本側で行い、その校閲をライデン側が行うというものである。データベースは北九州市立自然史・歴史博物館とライデンの両方に置くことになり、基本的に無料公開の線で進める(後述)。</p>
------------------------	---

### 3. システム開発について

(実施計画書に基づいて具体的な作業を行った場合に記載してください)

<p>内部データベースについて</p>	<p>(機器、サーバ、ソフト等について記述して下さい。)</p> <p>標本のデータはエクセルファイルで作成。画像は35mmカラーズライドで撮影したものを業者に入力委託を行っている。これは業務用スキャナで取り入れた方がはるかに鮮明な画像となるため。</p>
<p>公開用データベースについて</p>	<p>(内部データベースの公開に関し、データ変換、Webサーバプログラム、検索方法等について記述して下さい。)</p> <p>現在は公開していないが将来的には公開予定。</p>

#### 4. データ整理・入力について

(実施計画書に基づいて具体的な作業を行った場合に記載してください)

体制について	<p>(データ整理、入力についての作業体制や標本の整理に関して記述して下さい。)</p> <p>データ整理、入力は参加研究者が行っている。</p>
データ項目について	<p>(すべてのデータ項目、項目内容、言語(日英)、データ様式等について記述ください。)</p> <p>分類群(カテゴリー、綱単位)、和名、学名、性、標本タイプ(ホロタイプ等)、保管場所、標本に関するノート(remarks)、採集場所、採集年月日、収集者、その他、標本画像、ラベル画像</p> <p>画像データ以外はすべてテキストデータ。言語は和名以外は英語。データベースの最初の画面、および検索結果を示す画面は日本語。</p>

#### 5. その他

その他の主な本年度作業について	<p>(本年度作業のうち、主なものが上記2. ~ 4. に当てはまらない場合にその内容、成果等について記載してください。)</p>
-----------------	---

その他	<p>(その他何でも記載してください。)</p> <p>山口隆男、上田恭一郎、藤井伸二は2003年1月12日(日)国立科学博物館分館で行われた分類学連合のシンポジウムで本データベースのもととなった動植物標本調査とその結果について講演を行った。</p>
-----	---

6. 推進体制 (具体的な参加メンバーをリストアップしてください)

開発責任者	<p>(氏名、所属、役職、TEL 番号、E-mail アドレスを記入してください。)</p> <p>上田恭一郎：北九州市立自然史・歴史博物館、主幹</p>
参加研究者	<p>(氏名、所属、役職、TEL 番号、E-mail アドレスを記入してください。)</p> <p>山口隆男、熊本大学沿岸域環境科学教育センター、教授</p> <p>武石全慈、北九州市立自然史・歴史博物館、学芸員</p> <p>沢田佳久、兵庫県立人と自然の博物館、学芸員</p> <p>馬場敬次、熊本大学教育学部、教授</p> <p>藤井伸二、大阪市立自然史博物館、学芸員</p>

<p>会議開催状況 および内容に ついて</p>	<p>(開催したアドバイザー委員会やデータ評価委員会、ワーキンググループ等の会議について日時、場所、参加者、検討内容、決定事項等を記述してください。)</p> <p>今年度はオランダの国立自然史博物館での本データベースのプレゼンテーションが重要であったため、国内での会議は開催せずメール等の連絡で代行した。</p> <p>オランダでの会議内容は下記のとおり。</p> <p>日時：2003年2月11日(火) 10:00-12:00  場所：オランダ、ライデン市国立自然史博物館(Naturalis)  参加者：Jan Krikken (associate director), J. van Tol (head, department of Entomology), R. de Jong (curator, butterflies), C.H.J.M. Fransen (curator, invertebrate), Prof. L.B. Holthuis (honorary curator, invertebrate)、上田恭一郎  検討内容：シーボルト収集動植物標本データベースを作成するにあたってのスライド使用許可依頼、データベースの検討およびその設置場所、運用方法。  決定事項：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動物標本のスライドを用いてデータベースを作成することの許可が得られた。</li> <li>2. 日本側で作成したデータベースの検討、校閲をライデン側でも行うことが承認された。</li> <li>3. 完成したデータベースは北九州市立自然史・歴史博物館とオランダ国立自然史博物館に設置する。</li> <li>4. 運用方法は将来の検討課題であるが、使用は基本的に無料、印刷物等に使用するには両館に許可を求めて行うといった案が出された。</li> <li>5. データベース作成の費用は日本側でファンドを求めて行う。</li> </ol>
----------------------------------	--

以上